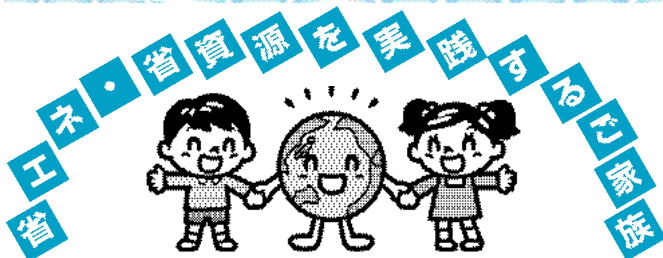


いながわ 特派員報告



久保田 由美 中橋 弥里



大切なのは積み重ね

槻並在住の前西幸治さん・麻美さんご夫妻のお宅では、屋根に太陽光発電パネルを取り付け、生ごみ処理機も設置しています。

日頃から、テレビやエアコンを長時間使わない時は電源を抜き待機電力の消費を防いだり、電気消費が集中する日中の時間帯を避けて深夜電力を利用したり、風呂の残り湯で洗濯したり、生ごみは処理機で堆肥にするなど、積極的にエコライフを実践されています。

ご夫妻は太陽光発電の発電量や使用状況が表示される室内モニターを見ながら「目に見える数値に自然と節電意識が高まります。毎日の積み重ねが大切ですね」と微笑まれました。



発電量をチェックするご夫妻

雨水利用で節水

8月下旬、白金在住の岡崎さんは自宅の庭に雨水貯留タンクを設置しました。タンクは容量150リットルのもので、家の雰囲気に合わせて木製のおしゃれなタイプを選ばれました。

庭一面に敷き詰めた芝生にまく水が、毎日たくさん必要だったことから、タンクの設置を考え、町の雨水貯留施設設置助成金制度を利用しました。岡崎さんは「設置したばかりなので、これからどのくらい節水になるのか楽しみです」と話されました。



素敵なデザインの雨水タンク

できることから始めましょう

町では、室内温度の適正化や休憩時間の消灯、使用済み封筒・用紙の再利用など環境への負荷を減らす組織的な取り組みを継続して実施し、平成14年にISO14001（環境マネジメントシステム構築）の5Rの行動を推進しています。家庭での生ごみ減量のため生ごみ処理機への助成を行っているほか、資源ごみ集団回収への奨励金制度を設け、現在自治会や子ども会など35団体が参加しています。

また、町ではごみの減量化を図るため、リデュース（資源・エネルギーの投入量を減らす）・リユース（再利用する）・リサイクル（再生利用する）・リフューズ（ごみとなるものの受け取りを断る）・リペア（修理して使う）の5Rの行動を推進しています。家庭での生ごみ減量のため生ごみ処理機への助成を行っているほか、資源ごみ集団回収への奨励金制度を設け、現在自治会や子ども会など35団体が参加しています。

町クリーンセンターでは、7種類15分類のごみの分別収集を行い、ごみの減量化・再資源化に取り組んでいます。町の人口増加にもなっているにもかかわらず、昨年度約94,537トンの1人1日当たり換算すると83.2リットルでした。そのうち、アルミ・スチール・電池・びん・ペットボトル・プラスチックなどの資源ごみ約113,077リットルは、リサイクル工場で資

地球環境を守るエコライフ



昨年のエコ見本市でのフリーマーケットの様子

環境の世紀といわれる21世紀。地域における公害や環境破壊のみならず、地球温暖化を始めとする地球規模の環境問題や資源の枯渇が深刻な問題となっています。猪名川の清流や豊かな緑といった自然環境に恵まれた私達の町。その環境を次世代に引き継ぐための町の取り組みや、私達にできるエコライフについて調べてみました。

循環型の社会へ

現在の豊かな生活は、エネルギー資源など多くの資源を利用することで成り立っています。しかし、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムを見直し、限られた資源の有効活用と循環利用を図ることが大きな課題とされています。

町の取り組み

町では、室内温度の適正化や休憩時間の消灯、使用済み封筒・用紙の再利用など環境への負荷を減らす組織的な取り組みを継続して実施し、平成14年にISO14001（環境マネジメントシステム構築）の5Rの行動を推進しています。家庭での生ごみ減量のため生ごみ処理機への助成を行っているほか、資源ごみ集団回収への奨励金制度を設け、現在自治会や子ども会など35団体が参加しています。

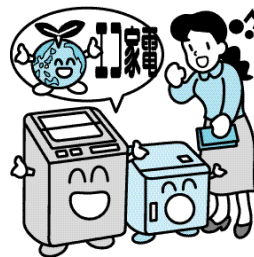
ごみが資源に生まれ変わる

一方、省エネルギー・省資源対策と環境にやさしい自然エネルギー活用の推進の一環として、太陽光発電システムへの助成も行っています。また雨水を草木の水やりなどに有効利用でき、災害時の備えにもなる雨水貯留タンクに対する助成金制度もあります。

暮らしの中でできるエコ

身近に取り組める一例を紹介します。皆さんも始めてみませんか。

エアコンの設定温度は暖房20度・冷房28度を目安に控えるにする。



電気・ガス・石油機器などを買う時は、省エネタイプのもを選ぶ。

長時間使わない電気製品は、コンセントからプラグを抜く。



風呂は家族で続けて入り、こまめにフタをする。

近くに行く時は、できるだけ徒歩や自転車で行く。



車の運転の際には、急発進・急加速をせず、排出ガスの量を少なくする。

後編
地球環境を守るということ、とても大きなことをしなければならぬと思ってきました。しかし、今回の取材で、日頃、私達が生活の中でも

>>> 町の助成金制度 <<<

ごみ減量化機器（電気式生ごみ処理機・自然堆肥型生ごみ処理容器）購入助成金制度

助成金額 購入価格（消費税抜き）の5分の4（1,000円未満切捨て）最高40,000円 指定店での購入が条件 問合せ 生活環境課（766-8712）

太陽光発電システム設置費補助金制度

助成金額 太陽電池の最大出力1kw当り40,000円、最高160,000円 計画段階で要相談 問合せ 生活環境課（766-8712）

雨水貯留施設設置助成金制度

助成金額 購入費および施設費用の総額の3分の2、最高35,000円 問合せ 工務課（766-8703）

いながわ エコフェスタを開催

町商工会では、企業・住民によるフリーマーケットや、粗大ごみをリサイクルした自転車や家具類の展示販売会、堆肥とパークの無料配布が行われます。

民・行政の三者が一体となって環境を考えるきっかけになればと、毎年秋にエコフェスタを開催しています。今年も11月23日（祝）に文化体育館で、環境や人にやさしい商品を集めた見本市や、フリーマーケット、商工会員による模擬店などの内容で催されます。